

助言レポート作成（2026年度）

【相談の経緯】

あなたは巡回相談心理士として小学校に訪問しています。5月の訪問で、以下のAさん（小学校4年生・女子児童）について助言することが求められました。特別支援教室専門員によると、Aさんは、3年生の2学期後半から学校で話すことができなくなり、医療機関を受診し始めたところです。校内委員会は、支援レベル2と判断しています。担任は、通常学級において実施可能な支援について助言を求めています。担任とは予定が合わず、観察後に協議する時間はほとんどありませんでした。そこで、担任に向けた助言レポートを作成することになりました。

【助言の内容】

担任からは、(1) Aさんが学校で話さない背景、(2) Aさんの支援において、どのような長期及び短期の目標を設定したらよいか、(3) 目標に向けて、授業においてどのように支援したらよいかの3点の質問があがっています。効果的な支援につながるようなレポートを800字以内で記述してください。

なお、上記3点を記述する際、(1) 困難さの背景、(2) 長期及び短期目標案、(3) 支援の手立て、と見出しを記してください。不足している情報がある場合は、今回の課題のケースに基づいて、各自で想像してください。

【学級担任（教職4年目の担任教諭）から提出された相談シート】

（3年生まで）

- 3年生までは、自分から話すことは少ないものの、質問には短く応答していた。この時、声のトーンが高く、裏声のような独特の声だった。3年生の2学期に他の児童から声のことを指摘されたらしく、徐々に学校で声が出なくなった。
- 低学年の頃から、自分から話しかけるといよりは、他の児童についていくタイプだった。
- 他者との距離は遠く、相手のことを考えずに率直に疑問に思ったことを聞くことがあった。
- 教育センターに隔週で通うようになり、最初は母が代弁しながら相談員と関わっていたが、少しずつ単語程度だが、相談員に話すようになってきた。

（家庭での様子）

- 家庭では両親やきょうだい（小1）と会話をし、歌を歌ったり、ギャグを真似ることもある。
- 近所の年下の子や親戚の子とは、家族と会話しているときと同じように話している。
- 同じ学年の子がいると、お店などでも話せなくなる。
- 両親には、「学校は怖い。友だちに笑われるから怖い。」と言っているが、「Bさんは、話してくれてやさしい。」とも話している。
- 絵が得意で、学校で起こった出来事を漫画で描くこともある。

（2枚目に相談シートの続きがあります）

(現在の状況)

- 学校には毎日、同じ時間頃に登校して、絵を描いて過ごしている。
- 担任や友だちとは、ジェスチャーや指差し、筆談でコミュニケーションをとっている。
- Bさんが話しかけると、表情がリラックスし、ジェスチャーや筆談、漫画で応答している。
- 1度決めたらこだわり続ける様子が見られ、話さないと決めているようにみえる。
- 身体を動かすのが苦手なようで、体育の授業では、見学が多かったり、発表になると止まったまま動かなかったりすることがある。
- 偏食があり、魚やぬめりのある物(オクラやなめこなど)は食べない。
- 決まった予定で行動することを好み、予定が急に変わると混乱することがある。今年の運動会の練習で予定が変更になった際、席から立たずに動かないことがあった。
- 冗談を文字通りに受け取る傾向があり、冗談を言われると固まることが多い。
- 現在は、発表を指名せず、出来るだけ話すことを求めないようにしている。また、タブレット端末で、困ったことがあったらメッセージを送るように伝えている。

(心理検査等の情報)

- WISC-Vの結果：FSIQ 93、言語理解 87、視空間 104、流動性推理 90、ワーキングメモリー95、処理速度 103
※教育センターにてAと慣れた相談員が筆談で実施
- 場面緘黙質問票：合計得点11点、学校場面(同級生)1点、学校場面(教師)0点、(SMQ-J) 家族関連場面8点、社会場面2点
※教育センターにて母親が評定

【行動観察結果】

国語の授業において、単元「アップとルーズで伝える」の授業を観察した。授業の展開は、(1)担任が範読する場面、(2)アップとルーズがどのような撮り方かを説明文から読み取る場面、(3)アップとルーズの特徴が書かれた段落を対比する場面で構成されていた。以下に観察において特徴的であったことを記す。

(1)担任が範読する場面

始業前、巡回相談心理士が教室に入ると、クラスでは担任や多くの児童が授業の準備をしていた。担任に挨拶をすると、廊下側の列の前から2番目にAがいることを教えてもらった。Aは国語の教科書、ノート、筆記用具を出して、一人で自由帳に絵を描いていた。小学生の女子児童の多くから人気のあるキャラクターの絵を、何も見ずに正確に模写していた。

始業時間になると、担任が合図し、日直が号令をかけた。担任が単元名と作者、めあて「アップとルーズにはどのようなちがいがいるのかを考えよう」と板書した。その後、担任が範読を行うと、Aは教科書の該当のページを開いて目で追っていた。その後、担任は教科書に掲載された写真とは別に、料理、花、街など、いくつかのアップとルーズの写真を提示し、どちらがルーズの写真なのか質問し、クラス全体に挙手で応答を求めた。Aはルーズの写真につい

て、被写体の背景も含めた広い範囲を撮影した写真に、低いものの挙手をしていた。

(2) 説明文から読み取る場面

担任は、「アップとルーズはどんなとり方でしょうか？」と板書し、教科書の該当箇所に線を引き、ワークシートに書き出すように指示した。A は迷うことなく赤鉛筆を手に取り、教科書の該当箇所に直線を引いた。線を引く際、定規を使って丁寧に真っ直ぐな線を引いていた。

その後、ワークシートに書き出した。担任は他の児童に個別に指導を行っており、「隣同士が書けていたら、どんなとり方だと思ったか、見せあってください」と指示した。A は書き終えていなかったが、隣に座っていた B (相談シートに記載のあった児童) が A の様子を見て待っていた。A が書き終わると、B はワークシートを見せて、「一緒だね」と声をかけた。A はプリントを見て、コクリとうなずいた。B や他の児童のワークシートを見ると、ほとんどの児童が「広いはんいをうつすとり方」というように、とり方が記された部分のみを書き出していた。

(3) 特徴が書かれた段落を対比する場面

担任は、クラス全体の児童がアップとルーズのとり方を書き出した後、それぞれを発表してくれる児童を指名し、「広いはんいをうつすとり方」とある部分を大きくうつすとり方」と板書した。発表者を求める際、担任は個人での発表ではなく、ペアを求めた。B は A に「どっちが発表する？」と尋ねると、A は緊張した様子で体を硬くし、小刻みに首を横に振った。「じゃあ、私が発表するね」と伝えて挙手をする、A はうなずいて、肩の力がすっと抜け、表情が和らいた。

次に、担任は、「アップとルーズのとくちょう」と板書し、アップとルーズのとり方のとくちょうが書かれている箇所に線を引き、ワークシートに書き出すように指示した。A は教科書を見たまま、手が止まっていた。A は、ルーズの特徴が書かれている箇所に線を引いている B の様子を見てから、線を引いて、ワークシートに書き出した。A が書き終えた頃、担任が机間巡視で A のところへやってきた。担任は、「ルーズやアップのとり方で、何が伝わるのかに気づけたね。他にはどんな特徴がある？」と質問した。B や他の児童は、それぞれのとり方で伝わることの他に、伝わらないことも書き出していた。A は肩に力が入り、口元に力が入っているようだった。担任は、教科書を指しながら、「ここに伝わらないことも書いてあるよ」と伝え、他の児童のところへ向かった。A はその後、伝わらないことを書き取ることはなく、教科書を見続けた。

終わりの時間が近づき、担任はそれぞれの特徴について、挙手をしてくれた児童を指名し、伝えることと伝わらないことを整理して板書して、授業が終わった。

とくちょう	とり方		アップとルーズのとくちょう
が広いルーズでとると、はんいはんいの様子よく分かります。	最初の画面のように、広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といいます。	ルーズ	(め) アップとルーズにはどのようなちがいがあのかを考えよう 中谷 日出
が細かいアップでとると、部分部分の様子よく分かります。	次の画面のように、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」といいます。	アップ	

* Aが書いた内容。実際には、丸みをおびた小さい字形で書かれた。